

次期青森県基本計画素案（ICT関連箇所抜粋）

（朱書箇所がICT関連記述）

序章

1 目的

県では、2004年（平成16年）12月の「生活創造推進プラン」の策定以来、「青森県基本計画未来への挑戦」（2008年（平成20年）12月策定）、「青森県基本計画未来を変える挑戦」（2013年（平成25年）12月策定）に基づき、「生活創造社会」の実現に向けた取組を進めてきました。

これまでの取組により、本県の強みである農林水産分野や観光分野は成長を続け、「経済を回す」仕組みづくりが着実に成果をあげるとともに、課題である県民の健康づくりなどについても、明るい兆しが見えてきています。

一方、本県を取り巻く社会経済環境は、人口減少と少子化、高齢化の一層の進行、労働力不足、将来訪れる超高齢化時代、グローバル化の更なる進展など、大きく変化しています。

特に、AIやIoT等の第4次産業革命は、産業構造や雇用環境の転換に加え、私たちの暮らしや生き方、働き方にも劇的な変化を及ぼすことが予想されます。

この計画では、まさに時代の転換点とも言える急激な環境変化に対応していくため、本県の「多様性」と「可能性」を示しながら、人口が減少しても安心して暮らせる、持続可能な青森県づくりをめざします。

「青森県の生業と生活が循環して生み出す多様な価値が、世界に貢献し、広く認められている状態」を「生活創造社会」の究極の姿と捉え、その実現のため、「生業（なりわい）」と「生活」の成長戦略となる基本計画をここに策定します。

第1章 青森県を取り巻く環境の変化

1 環境変化とこれからの展望

2008年（平成10年）12月に策定した「青森県基本計画未来への挑戦」では、いま生まれた子どもたちが大人になったころ、この青森で暮らしたい、暮らしていける、そういう青森県のめざす姿を描くため、おおむね20年後の2030年における本県のめざす姿を掲げました。

2030年まであと10年余りとなり、様々な具体的な動きが見えてきています。

AIやIoTの進化などにより、社会経済から私たちの身近な暮らしまで、想像もつかないほどの大きな変化が見込まれるこれからの時代にあっても、未来を展望し、私たちを取り巻く環境変化に柔軟かつ的確に対応しながら、2030年のめざす姿の実現をめざし、チャレンジを続けていく必要があります。

（1）世界の動向

グローバル化の進展やICTの進化により、私たちが暮らす青森県と世界との時間的・心理的距離は確実に縮まっており、その傾向は、今後更に強まると見込まれます。

世界の動きが、日本そして青森県にも影響を及ぼす時代が到来していることを踏まえ、国内ばかりではなく世界の動向にも注目していく必要があります。

○第4次産業革命がもたらす変化と持続可能な開発目標（SDGs）

AI、IoTなどの進化がけん引する第4次産業革命は、産業・雇用構造に大きな変化をもたらすのみならず、健康、医療、金融、公共サービスなど幅広い分野に影響を与えていくと見込まれます。

新興国の経済成長、人口増加により、世界的に食料、水、エネルギーの需要が大幅に増加することが見込まれています。また、地球温暖化や気候変動などにより、農作物の品質の低下や水害・土砂災害の増加など、地球環境への影響も懸念されます。2015年（平成27年）、国連で、国際社会全体の普遍的な目標として、「持続可能な開発目標」（SDGs）が採択されました。今後、2030年に向けて、世界各国が、経済・社会・環境を巡る課題に取り組んでいく必要があります。

（2）日本と青森県の動向

○Society5.0の実現へ

第4次産業革命の新たな技術革新によって、本県のみならず我が国全体において、経済活動や雇用環境なども含めた地域社会のあり方が大きく変化していくものと考えられます。

国は、先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会として、「Society5.0」の実現をめざしています。

生産年齢人口の減少が進む我が国が、今後も一定の経済規模を維持していくためには、AIやIoTなどを活用し、農業、ものづくり、医療・介護、交通など、あらゆる産業・生活分野において、イノベーションによる新たな価値の創出を図るとともに、生産性を向上させ、国際的な競争力を高めていく必要があります。

本県においても、最先端技術が基盤となり、社会・生活のあり方を大きく変革していく潮流を見据え、IoTを活用したビジネスイノベーションの創出など、新たな産業分野へのチャレンジが求められています。

「Society5.0」の実現により、人口減少や超高齢化の進展に伴って生じる様々な課題の解決と、私たちの生活の質の向上が期待されます。

○多様化の進展

第4次産業革命の進展は、民泊やカーシェアリングに代表されるシェアリング・エコノミーの浸透、仮想通貨を始めとする金融とICTを組み合わせたフィンテックの普及など、私たちの暮らしの幅広い分野に影響を与えと考えられます。

働き方の見直しの機運が高まる中、テレワークの拡大や、単純作業や定型的な業務へのAIの活用による就業構造の変化が進むとともに、インターネットやSNSの普及などにより、一つの分野に強い関心や知識、独自の視点、創造力などを持つ人財やICTを介して結びついた多様な人財が新しい分野の仕事を生み出すなど、職業やライフスタイルの多様化が更に進むと見込まれます。

○2030年に向けて

この計画の最初の年となる2019年、平成が終わり、我が国は新たな時代を迎えます。

東日本大震災から10年が経過する2021年は、現在の青森県が誕生してから150年の節目の年でもあります。2025年には第80回国民スポーツ大会の本県開催、2030年度中には北海道新幹線札幌開業が予定されています。

この間、我が国、そして本県においては、人口減少・高齢化が進行し、厳しい局面が続きます。

一方で、**第4次産業革命の進展**は、現在の社会経済システムに、従来の価値観では捉えきれない大きな変革をもたらす可能性があります。

今後、社会環境がどの程度変化するかに関わらず、人口減少、高齢化は確実に進みます。人口減少社会への対応をしっかりと進めるとともに、本県のこれまでの取組の実績や築き上げてきた人的ネットワークを生かし、「世界へ打って出る」という意欲を持ち、県民一丸となって立ち向かっていかなければなりません。

2030年に向けて、確実にやってくる未来への危機感をしっかりと持つ一方で、過度な悲観論には陥らず、変わることを恐れず、勇気を持って未来にチャレンジしていく必要があります。

1 環境変化とこれからの展望

(1) これまでの取組の成果

<産業・雇用分野>

○創業・起業の増加

創業支援拠点を県内8市に拡充し、専門家による伴走型支援を実施しました。

県内の創業者数は大幅に増えており、2017（平成29）年度は過去最高の129人となりました。

若者・女性の創業や、地域資源の活用、**ITサービス関連等の多様な分野における創業**が広がってきています。

(2) 青森県の多様性と可能性

○飛躍する「あおもりツーリズム」

国は、2030年の訪日外国人旅行者数6,000万人実現を目標に、外国人観光客の誘致（インバウンド）の促進に取り組んでいます。2019年ラグビーワールドカップ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際的なスポーツイベントを控え、更なる増加の大きなチャンスを迎えています。

本県においても、青森・ソウル線や2017（平成29）年に就航した青森・天津線、年々増加している台湾からのチャーター便など、国際定期便・チャーター便の充実に伴い、着実に外国人宿泊者数が増加しています。

本県が提唱してきた「立体観光」は着実に成果を挙げ、特に海外で知名度の高い函館市を始めとする北海道との周遊は、今後、大きな可能性を有しています。インバウンド需要の拡大は、本県観光にとって長年の課題であった冬季観光の振興の観点からも、大きな期待が寄せられています。グリーンツーリズムの農林漁家民泊も2017年（平成29）年度、過去最高を記録し、農山漁村の活性化が期待されます。

本県は、美しい自然景観、温泉、食、伝統文化、更には、世界自然遺産の白神山地、世界文化遺産登録をめざす特別史跡三内丸山遺跡を始めとする縄文遺跡群など、多様な観光資源を有しています。

二次交通や**Wi-Fi環境・多言語表記を始めとする受入環境の整備**など、「選ばれる地域」となるためには多くの課題がありますが、四季それぞれに特長を有する本県の観光資源は、日本人観光客のみならず外国人観光客にとっても魅力的であり、今後、更なる発展が期待できます。

○新たな産業創出が期待される「あおもりライフ」

我が国は、超高齢化社会の到来により、今後、医療・健康・福祉関連サービスの需要の増加が見

込まれます。

本県は、「青森ライフイノベーション戦略」に基づき、青森県の持続的な経済成長を支える「次の基幹産業」をつくることをめざしており、重点分野の1つのプロダクト分野では、プロテオグリカンによる新たな健康美容食品市場が創出され、参入企業数や商品が順調に増加しています。

弘前大学の革新的イノベーション創出プログラム（COI）拠点では、**弘前市岩木地区の住民の健康に関する調査で蓄積されたビッグデータを解析し、疾患予防法の開発**などに取り組んでいます。

本県の産学官金によるライフ（医療・健康・福祉）関連産業の振興に向けた取組の蓄積は、今後の大きな可能性を有しています。

○青森県の暮らしやすさ

「青森県民の意識調査」によると、全体の63.6%が本県を「暮らしやすい」と感じています。また、各種統計調査の結果によると、本県は、通勤時間は全国第6位の短さであり、2018（平成30）年4月1日時点の待機児童数はゼロ、住宅地の平均価格（1㎡あたり）は全国2番目に低く、マイホームを持ちやすいなど、新鮮な食や豊かな自然はもとより、暮らしの様々な局面において、全国に比べて優位な指標があります。

インターネットで全世界とつながることで、今後、仕事の面でも暮らしの面でも、東京など大都市に住んでいなければ実現できないことは減り、働き方やライフスタイルの多様化が更に進むことで、暮らしやすさを重視する人々が増えてくると見込まれます。人生の価値観が多様化していく中で、本県が持つ暮らしやすさという財産は、これから更に評価が高まり、U・I・Jターンや移住の促進に向けたチャンスになることが期待されます。

○本県のイメージ

本州最北端に位置し、首都圏から離れていることは、本県にとって、大変大きなハンディとなっていました。高速交通網の整備、**インターネットの発達**等により、本州最北端に位置することは、ハンディではなくなりつつあります。

むしろ、最北端であることや特徴的な形などから、県外・海外の方々にとってもイメージが付きやすく、訴求力があることは、これからの本県にとっての大きな可能性を考えられます。

青森県と世界が直接つながる時代となり、本県の良いイメージを世界に届ける大きなチャンスが広がっています。

4 重視する視点

本県の最重要課題である人口減少を克服していくためには、以下の視点を重視し取組の重点化を図っていくことが重要です。

これまでの取組の成果や課題を踏まえながら、前例にとらわれず、新たな取組に臆することなく、強い意志を持ち、分野横断でめざす姿の実現に向かってチャレンジします。

①経済を回す

②世界へ打って出る ～local to World～

③労働力不足への対応

各産業分野における労働力不足に対応するためには、関係団体等と連携し、短期及び中長期的視点を持って取組を進めることが重要です。

社会減対策として若者の県内定着・人財還流を促進するほか、女性や高齢者、U I Jターン希望者などが、多様な働き方のできる環境づくりを進めます。

また、将来的に労働力として必要性が高まる職種、薄れる職種などが現れてくることにも留意しながら、I o TやA Iの活用などによる省力化や生産性の向上に取り組みます。

④「青森県型地域共生社会」の実現

⑤県民の健康づくり

第3章 全県計画4分野

1 産業・雇用分野（しごとづくりと所得の向上）

【2030年のめざす姿】

○人々が行き交い、多様な働き方を選択できる青森県

A IやI o TなどのI C T分野における新技術などを活用しながら、若者や女性、高齢者など、誰もが働きやすい環境が整備され、多様な働き方が可能となり、新たな価値を発信し、生活の基盤となる魅力的な職場が数多く生み出されることで、県内外から多くの人財が集まっています。

また、国内外をつなぐ陸・海・空の交通ネットワークや情報通信基盤の整備が進み、青森県と道南地域を一つの圏域と捉える津軽海峡交流圏の圏域内で、観光・ビジネスを始めとする様々な分野での交流が深まり、国内外との交流が活発になっています。

政策1 アグリ分野の持続的成長

施策1 消費動向の変化を見据えた販売戦略の展開

【主な取組】

- ・マスメディアやSNSなど様々な媒体を活用し、食と観光の連携も意識しながら、国内外のターゲットに応じた、青森ファンを増やすための効果的な情報発信に取り組みます。

政策2 世界から選ばれる「あおりツーリズム」の推進

施策2 魅力あるコンテンツづくりと戦略的な情報発信

【主な取組】

- ・マスメディアやSNSなどの様々な媒体やネットワークの活用により、国内外のターゲットに応じた効果的な情報発信を進めます。

施策3 誘客促進のための受入環境の整備

【主な取組】

- ・観光施設における多言語対応や先端技術を活用した観光案内機能の充実を促進します。
- ・キャッシュレス機能の普及・拡大や免税店の新規開設を促進します。
- ・交通・情報通信基盤を効果的に活用し、多様な交通手段の組み合わせによる目的地へのアクセス向上や交通情報の検索機能の充実などの利便性の向上を促進します。

政策4 地域産業の振興による多様な「しごと」の創出

施策2 地域資源を生かした産業の創出・育成・継承

【主な取組】

- ・産学官金連携の強化や研究開発の促進、**IOT等の革新技術**や**知的財産の活用**による新産業や新事業の創出を促進します。

政策5 「経済を回す」ための基盤づくり

施策3 働きやすさや収益性を高める生産性向上対策の強化

AIやIoTなどICT分野における革新技術の活用や改善など、各産業分野の実情を踏まえた生産性の向上を促進する取組を強化することで、誰もが働きやすい環境整備や事業者の収益性向上につなげ、各産業分野の競争力強化を図ります。

【主な取組】

- ・各産業分野の実情を踏まえた**ICT分野における革新技術（AI・IoTなど）の活用**を促進します。

施策4 ICT利活用の促進

インターネットなど高度情報通信ネットワークを通じて流通する膨大な情報を適正で効果的に活用できる環境整備に取り組みます。

【主な取組】

- ・**Wi-Fi環境の整備**など、革新技術の活用を支える**情報通信基盤の整備**を促進します。
- ・革新技術の利用を支える**ICT利活用人財の確保・育成**を図ります。

2 安全・安心、健康分野（命と暮らしを守る）

政策2 県民が、がんを知り、がんの克服を目指す対策の充実

施策1 科学的根拠に基づくがん対策の推進

これまで蓄積されてきている、がんに関する**データ**や研究などの知見に基づき、生活習慣の改善や検診受診率等の向上を図るとともに、**がん登録データの一層の充実と活用**によりがん予防を更に推進します。

【主な取組】

- ・検診受診機会の増加や女性ががん検診を受けやすい環境の整備等により、検診受診率と精密検査受診率の向上を図るとともに、がん検診の精度管理や**がん登録データの活用**など、科学的根拠に基づくがん検診を推進します。

3 環境分野（自然との共生、低炭素・循環による持続可能な地域社会）

政策2 県民みんながチャレンジする低炭素・循環型社会づくり

施策3 地域特性を生かした再生可能エネルギーの活用推進

【主な取組】

- ・**自立分散型スマートコミュニティ(※)の構築**に向けて、住宅や事業所における再生可能エネルギーの活用促進に取り組みます。

(※)自立分散型スマートコミュニティ：太陽光やバイオマスなどの地域のエネルギー資源の活用に加えて、**ICT**や蓄電池等を**活用**することにより、地域で需給を管理し、利活用の最適化を図るエネルギーの自立を目指した取組のことで。

4 教育・人づくり分野（生活創造社会の礎）

【取組の方向性】

「百年の計は人を植うるにあり」と言われるとおり、人づくりとは、一朝一夕になし得るものではなく、まさに百年の大計です。

人口減少に伴い、地域コミュニティの機能低下や経済活動の縮小が懸念される中では、地域の課題に立ち向かう人財の力がより一層重要となります。

これからは、ICTを始めとする科学技術の進歩により、本県と世界との距離がますます縮まり、青森にいながらでも、日本そして世界と勝負できるチャンスが増えていきます。本県がめざす生活創造社会の実現に向けて、国内外を股にかけて活躍する人財、困難を恐れず、意欲を持ってチャレンジする人財、主体的に判断し変化に柔軟に対応できる人財を育成していくことが必要です。

また、人生100年時代の到来、生き方・働き方の多様化に伴って、女性や高齢者、県外からの移住者など多様な人財の活躍が期待されます。

教育・人づくり分野では、青森県の未来を切り拓く人財の育成と活躍促進に向けた方向性を示します。

政策1 あおもりの未来をつくる人財の育成

施策2 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成

確かな学力の向上に取り組むほか、主権者教育や情報教育(※)などにより、新しい時代に求められる資質・能力の育成に取り組みます。

また、人権を尊重し、他者を思いやる心を育成するとともに、将来にわたって健康に暮らすための知識や意識の醸成、生活習慣の定着に取り組みます。

(※)情報教育：コンピュータ等を活用した学習活動や、発達段階に応じたプログラミング、ネットワーク（情報セキュリティを含む。）等に関する学習のことであり、情報活用能力を育成します。

【主な取組】

- ・小・中・高等学校の連続性と発展性のある学習指導や生徒指導を通して、自ら考え行動する力や情報活用能力など、新しい時代に求められる資質・能力の育成に取り組みます。

施策4 子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばすための教育環境の整備

【主な取組】

- ・情報活用能力など、新しい時代に求められる資質・能力を育成するための教育環境の整備を進めます。

第4章 地域別計画

地域別計画（中南地域）

1 2030年における地域のめざす姿

○先端技術を導入した高付加価値農業の先進地

生産年齢人口が減少する中で、農家の高齢化や深刻化する労働力不足に対応するため、ICT等を取り入れた新たな農業（スマート農業）の推進や熟練した技術が不要な新たな栽培方法、施設型農業分野での自動化技術などを積極的に導入した高付加価値農業が営まれています。

また、農産物の生産・加工・販売を地域内で各主体が連携・協力して展開する体制が整備されており、海外への輸出から全国的な流通、産直施設での販売、農家レストランや家庭での食事に至るまで、あらゆる場所で津軽の「美味しい食」が提供されています。

3 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

(1) 労働生産性の向上や6次産業化による稼げる農林業の推進

[主な取組]

- ②高齢化や労働力不足に対応した、熟練した技術が不要な栽培方法の導入による新規就労の促進やICT等を取り入れた新たな農業の推進、農家と補助労働者とのマッチング支援
- ③施設型農業分野での労働生産性向上を図るための自動化技術やAI技術の導入支援

(2) ものづくり産業を支える人財力の強化

[主な取組]

- ③高等教育機関や試験研究機関を核とした医療・健康・福祉関連産業や先端技術産業の成長促進、AI技術等を活用して農業分野やものづくりなどの地域産業に貢献する人財の育成・誘致

(3) 感動の舞台づくり

[主な取組]

- ③美しい都市景観の形成や訪問先での使い勝手のよい移動手段の整備促進、電子決済システムの導入やWi-Fi環境の整備促進などの受入態勢づくり

地域別計画（三八地域）

1 2030年における地域のめざす姿

○力強い経営体が地域を支える農山漁村

農山漁村では、生産物の高品質化や積極的な情報発信、販売力強化などによりおうとうやにんにく、イカ、サバなど様々な地域産品のブランド力が向上し、競争力のある農林水産物が生産、販売されるとともに、6次産業化等新たなビジネスの拡大により域内外市場産業との取引が拡大しています。

また、地域を支える農林水産業を基盤とした多様な経営体が育ち、高齢者も取り組むことのできる生産体系、ロボット技術やIoT、AI等を導入した生産の効率化などにより、労働力の減少や高齢化に対応した農林水産業が展開されるとともに、地域共生社会の実現につながる活動に取り組んでいます。

3 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

(1) ものづくり産業の活性化とエネルギー関連産業の振興

[主な取組]

- ③IoTやAIの活用などによる地域企業の生産性向上の取組の促進

(2) 農林水産資源の高付加価値化と人財・経営体の育成

[主な取組]

- ④農林水産物の高品質化やICTなどを活用した積極的な情報発信などによるブランド力の向上と販売力の強化

地域別計画（西北地域）

1 2030年における地域のめざす姿

○たくましい農林水産業

農林水産業を支える基盤となるきれいな水、土、大気が守られ、安全・安心、高品質な農林水産物が地域ブランドとして広く流通し、既存販路の拡大や新規エリアの開拓が進んでいます。

地域が一体となった取組により経営感覚に優れた生産者等の育成が進むとともに、生産された農林水産物が地元事業者により付加価値を高めて流通・販売されるなど、地域の6次産業化が進展しています。

農林水産業に夢を持つ若者の増加や地域経営体の育成・大規模化により、働く場所の確保が進み、多様な取組が展開されるとともに、作業のICT化等により労働力不足への対応が進んでいます。

3 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

(1) ブランド力アップで稼ぐ農林水産業の推進

[主な取組]

- ④ICTやロボット化技術を活用した省力・低コスト技術の導入による労働生産性の向上

地域別計画 下北地域

3 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

(1) 地域の特長を生かした農林水産業の充実

[主な取組]

- ④地域に適した特色ある農林水産物の生産地域拡大、ブランド力の向上及びSNSの活用等による情報発信力の強化

(2) 満足度の高い下北観光の推進

[主な取組]

- ⑤ICTの利活用の促進

第5章 取組の重点化

1 戦略プロジェクト「人幸増加大作戦！」の設定

[1] 多様なしごとの創出を推進するプロジェクト

創業・起業の推進、新産業の創出など多様な雇用を創出するほか、各産業分野における働き方改革の推進や労働力の確保、最新機械・技術等の導入による省力化等の取組を推進します。

- ③生産性向上・働き方改革（AI・IoTなど革新技術の活用、職場環境の整備、業務効率化、産業人財の等力開発）

第6章 計画の推進

2 ICT利活用対策の充実強化

第4次産業革命や国が進める Society5.0の動向などを常に意識しながら、人口減少、高齢化、労働力不足など本県が抱える課題の解決や、「経済を回す」取組の更なる推進を図るため、各分野において、AIやIoTなどの革新技术の導入や、これを支える基盤整備と人財育成など、あらゆる主体によるICTの利活用対策の充実強化に向けた取組を積極的かつ戦略的に進め、県民生活の利便性と質の向上を図ります。

—以上—